

金属労協・第 61 回定期大会 議長挨拶

2022 年 9 月 6 日

全日本金属産業労働組合協議会

議長 金子 晃 浩

金属労協・第 61 回定期大会の開催にあたり、執行部を代表してご挨拶申し上げます。

今年の大会は、新型コロナウイルス感染症がまだ終息していない中ではありますが、Web 会議システムを活用してのハイブリッド開催とさせてもらいました。ここ 3 年間の中では最も多くの方々と直接顔を合わせることができたことに嬉しく思っています。とは言え、オンラインを活用した議事運営ですので、皆さんには何かとご不便をおかけしますが、スムーズな運営にご協力頂きますようお願い申し上げます。

本日は大変ご多忙のところ本大会にご来賓として、「連合 芳野友子会長」、海外を代表し「インダストリアル本部 松崎寛書記次長」にご臨席賜りました。後ほどご挨拶いただきますが、まずは皆さんの盛大な拍手で感謝と歓迎の意を表したいと思えます。

さて取り巻く情勢ですが、世界経済は 2021 年にパンデミックの鎮静化に伴い一時的に回復の兆しが見られ、日本においても実質 GDP 成長率が 3 年ぶりにプラスに転じる等コロナ以前に戻りつつありました。しかし、2 月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、中国の景気減速や大規模なロックダウン等の影響により、世界全体でエネルギーや食糧供給網の混乱、物価上昇が急速に進み、本年に入り次第に陰りが見られるようになってきています。

金属産業においても急激な円安の進行や物価上昇傾向にあり、また米中対立による地政学的リスク、長期化している半導体等の資材や原材料不足、更には足元での新型コロナウイルス感染の再拡大等もあり、今後に向けて不透明な状況が続いています。

金属産業が、第 4 次産業革命・DX などの将来に向けた大きな変革期を向かえている中、今後も日本で競争力を磨き続けながらモノづくりを続け、雇用を維持・創出していくためには、起こりつつある変化や危機を敏感に察知し、あらゆる変革に果敢に挑戦していく必要があります。この危機を金属労協に集う 200 万人の仲間の英知を結集し、チャンスにしていきたいと思えます。

そして日本の金属産業・ものづくり産業の海外展開が進む中、コロナ禍による影響を受ける以前から拡大してきていた保護貿易主義・自国第一主義の流れが、昨今さらに増してきていることに懸念を覚えています。健全なグローバル化の発展が健全な市場を生み出し、それが世界中の不安定雇用や格差拡大の抑制に繋がるものと考えています。

こうした社会を実現していくために、我々としては世界中の金属産業に携わる労働者が集うインダストリアル・グローバルユニオンとの連携・連帯を図っていく必要があります。昨年 9 月にリモートで開催されたインダストリアル世界大会において、JCM としての悲願でもありましたが、本日ご臨席の松崎さんが本部書記次長に選出されました。松崎さんの今後のご活躍に期待するところですが、金属労協としても役割と責任をしっかりと果たしていかなければならないと思っています。

さて本大会は昨年から始まった 2 年 1 期の中間年にあたります。よって後半期に臨むにあたっての活動方針については、昨年確認しました方針をベースとし、現在の情勢や変化点を踏まえ補強したものとしています。具体的な方針については後ほど浅沼事務局長から提案しますので、私からは課題意識を 3 点だけ申し上げておきたいと思います。

<今後の JCM 運動のあり方>

1 点目は、今後の JCM 運動のあり方についてです。

一昨年から各産別の書記長・事務局長に組織改革推進チームに参画いただき、財政基盤の確立をベースとした組織と活動のあり方について論議を深めてきました。その内容については昨年の大会時に既に報告していますが、平たく申し上げれば、金属労協にしかできない活動に特化、即ち、国際活動と人材育成に特化し、その他の活動は限られた人材と財政を前提に、連合との役割分担や各産別の活動の効率化への寄与に鑑みながら、金属産業の持続可能で健全な発展のために資する組織にしていこうとの考え方です。金属労協の将来像に関わる非常に重大な提案ではありましたが、これがゴールではなくこれをどう実際の体制に落とし込んでいくのかと言う点において、今まさに各産別・各地方ブロックの皆さんと論議をしているところです。

なお、これまでの論議の中で出てきた懸念の一つとして、「連合運動への移管を進めていくと、これまで大事にしてきた『JC 共闘』の火が消えてしまうんじゃないか」という意見がありました。これについては我々も十分にその重要性は承知しているつもりでいます。とりわけ春闘時に物心ともに支えとなり機能してきた「JC 共闘」はこれからも守りつつ、将来的な持続可能性も念頭に置いて、あるべき組織、推進体制の構築をしていきますので、どうかご理解いただき、それぞれの立場から引き続き積極的な議論参加をお願いします。

〈金属産業政策の推進〉

2点目は、金属産業政策の推進についてです。

今期の方針の中で掲げている産業政策の内、特に重点政策として位置付けていますのが、DX、カーボンニュートラル、適正取引の3点です。それに加えて言えば、人権DDもまさに時宜を得た重要な政策と位置付けています。金属産業の置かれた環境に鑑みれば、いずれも早急に対処が必要だと認識しています。そしてその大きな役割を果たすのが政策実現に向けた取り組みとなります。

さてそれに関連して、7月10日投開票で行われました第26回参議院議員選挙について少し触れたいと思います。

今回金属労協各産別からは3名が比例代表候補として選挙戦に臨みましたが、結果、我々の仲間の議員全員を国政の場に送り出すことができませんでした。金属労協として大きな痛手であるのはもちろんですが、各組織が総力を挙げての戦いが報われず、苦杯を喫したことが本当に残念でなりません。これまでの皆さんのご奮闘には心より敬意を表したいと思います。

我々の望む政策を実現させようとするならば、その趣旨に賛同するだけ多くの仲間が結集する必要があります。今回のように、連合組織内議員でさえ所属政党が異なるような状況はあるべき姿とは言えず、こうした構図は今後絶対に回避すべきだと思っています。(3年前も言っていたと思うのですが…) 今一度、政策実現を可能にし得るだけの大きな政治勢力の結集を果たすべく、連合としての役割と責任をしっかりと果たさなければならないと、自戒の念を込めて申し上げておきたいと思います。

いずれにしても金属労協としては、「民間・ものづくり・金属」の観点に立脚し、引き続き金属産業・ものづくり企業の健全な発展と、働く者の魅力を高めていくための政策・制度の実現に向けて取り組んでいかなければなりません。今後も5産別で力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

〈2023 闘争に向けて〉

3 点目は、来春 2023 闘争に向けてです。

今次 2022 闘争につきましては、後ほど中田事務局次長から詳しい報告をしますが、私からも少し触れさせていただきます。

今次闘争では、賃上げ獲得組合の割合が、前年はもちろんコロナ禍の影響が本格化する前の 2020 年をも上回る結果となりました。また賃上げ獲得組合の賃上げ額の平均も 2014 年以降では最も高い水準でした。更に規模別で見ますと、299 人以下の組合は、2014 年以降で最も高い賃上げ額であり、6 年連続で 1,000 人以上の組合を上回りました。

こうしたことは、各産別の皆さんが JC 共闘のもと、「生産性運動三原則」に基づく賃上げを基軸とした永続的な「成果の公正な分配」の必要性や、産業・企業の課題を共有しつつ、「人への投資」の必要性について根気強く労使の認識を深めてきた成果の表れだと思っています。おかげで、ここ数年で最も J C 共闘の存在感を発揮できたのではないかと思っています。あらためて皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

来春に向けた方針検討はまだ緒に就いたばかりですので、現段階で報告できることはありませんが…、これまで継続的に取り組んできました賃金の底上げ・格差是正の観点に加え、経済・社会の動向、とりわけ昨今の物価上昇に伴う生活への影響を注視していく必要があります。またコロナ禍でも継続して見直してきた働き方や労働の質の向上に伴う「人への投資」について、更には、適正取引の推進を通じた産業・企業の競争力等の観点も踏まえ、日本経済の好循環にも繋がる取り組みとするべく、幅広い観点から総合的に検討を重ねていきたいと思っています。

〈結びに〉

結びに、金属労協としては今大会は中間期の位置付けとなりますが、構成産別によっては役員改選に伴い、本大会をもって退任される役員もいらっしゃると思知しています。これまでの JC 運動の推進にご尽力頂きました仲間の皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

現在、金属産業のおかれている環境はこの先も大変厳しいことが予測されますが、金属労協に集う 200 万人の仲間の英知を結集し果敢に挑戦し続けていけば、必ずやこの難局を乗り越えていけると確信しています。その先にある新しい

時代の礎を築いていくべく、引き続き JC 共闘のもと仲間の輪を大事にしながら運動を推進して参ります。

皆さんの引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げ、また本大会におけます皆さんの真摯で活発な討議をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。ともに頑張りましょう！

以 上